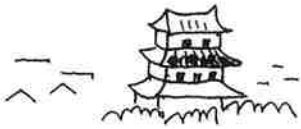
極な話です。これは年貢が高かったウラミか、はたまた村人が殿様に従軍し、共に苦労した親しみの故か知る由もありませんが、どうもその語呂に猛将の落馬をひやかすような、あたゝかいユーモアが感じられるので、主従の親しみでつけたのかなと思います。



短歌①

研修旅行「蒲江町」に参加して

はまゆうの見学

宮崎　チズ
（会員・佐伯市中村北町）

波白き江武戸公園雨の中清らに咲けるはまゆうの花

出迎えの富沢会長にこやかにはまゆう見学のわれらをねぎろう

隧道が通りて僻地の浦々も生活の形態変りしという

山けずり沼を埋めては拡がりし見下ろす町の息吹は海から

手入れする高校生の分担のはまゆうの花逞しく育つ

社会課の課長の名前を「まーまー」と呼びているなり富沢会長